

三里塚・反合実力斗争をシテ 全国潮流の形成にむけて！

80 春斗總括・駁場討議資料



はじめに

われわれは、今春斗を「総括」するとき、極めて特徴的な2つの事態を見ることができる。それは、オ1に、春斗決戦前夜4月15日、「本部」-車マリ分多が公然と労働千葉の看シストライキを襲撃するという、日本労働運動史上かつてない反革命行為を行い、われわれは、その反動的企てを激しい怒りの中で粉碎し、断固としてストライキを貫徹したということである。

オ2に、4・16春斗決戦ストが、総評・民団・富塙の「8%要求」に示された屈服的姿勢をみすかした日市つらショアニーの超巨額回収に対する労働者大衆の怒りの爆発として、総評・富塙、そして「本部」-車マリの「ストなし暴動を粉碎して爆発、そうしたばかりで、公労委における、「労働者側委員の辞表提出」-「調定不能」、という春斗の歴史上かつてない「異例」の事態にたちいたったということである。

こうした80春斗をめぐる情況は、われわれが提起していたとおりの、激動期、動乱期の幕あけに小さわしい状況を示しており、労働運動の戦闘的再生へ向けて進む労働千葉の路線の正しさを実践的に証明したといえる。



われわれは、80春斗を前にして、80春斗をめぐる情勢と併せて113課題について、以下のヒアリ提起した。（4/5拡大常任委員会）

4・5拡大常任委員会レジュメより

80春斗をめぐる情勢 何が向かれているのか？

(1) 基本的にどのような時代観をもつべきか？

今、労働運動の分岐・総合・再編の動きが激しくはじまっている。これは戦後30年間、日本労働運動を主導してきた総評・民同労働運動が完全に崩壊したこと意味しており、ここ数年間で、日本の労働運動が一変してしまうような事態が進攻しているといえる。労働運動の新らしい時代がはじまろうとしている。

- 既成の权威にみわる真に斗争労働運動の潮流をうちたてるチャンスのとう來。
- 何を軸にすれば新たな運動の流をつくることができるのな？トータル（全体的）視点なら真剣に考えなければいけない。

(2) 全面化する帝国主義的（産業報国会的）労働運動。

- ① **総評民同労働運動** 高度成長期には、一定の賃上げと引き換えに労働者の資本主義体制への自主的協力をとりつける好都合な労働者支配の方法であった民同労働運動ですら、許す余裕がなくなり、このほどに支配階級の危機が来まっている。
- ② **右翼的「労戦統一」** 右翼的労戦統一の狙いは、帝国主義的労働運動をもって戦後労働運動を右から解体することにある。
- ③ **帝口主義的労働運動** 帝口主義的労働運動とは、企業執行主義、社会排外主義という帝口主義の思想で労働者を帝口主義の側へ直接支配するものであり、階級の対立、階級斗争も認めない。ともに“労働運動”と呼びうるものではなく、労働運動の解体を狙ったもの。

④ **春斗の否定** とりわけ、今春斗における賃金8%要求は、総評そのものが春斗を否定し、賃上げ斗争を否定したこと意味しているのだ。

(3) 労働運動の爆発—80春斗の爆発は不可避

① **階級対立の激化** しかし、こうした攻撃は、労働者への徹底した搾取と合理化、賃金抑制と所得権の縮小奪を意味しており、何ら同盟ベースで右翼再編が進むのではなく、来たるべきものは階級対立の激化と流動化、かつてないスケールでの斗争の爆発がつまりつつある。

(4) 何が問われているのか？

わが国の課題は、「体制の根本的変革」という課題の中に労働運動を正しく位置づけ、反合斗争や反戦、政治斗争を放棄し、労働運動を高度成長のおこぼ山頂載式の賃上げ斗争だけに切りちぎってしまつた結果、賃上げ闘争すら見えなくなつた総評民自労運動の方向を大きく下支の流れの中に明らかにしていかなければならぬ。

①支配階級にとっても、労働者階級にとっても、との攻撃と斗争の最大の焦点たる三里塚斗争を労働運動の不可欠の課題として真正面からとりあげ、この斗争のなかで、日帝と斗争する人民の力關係の変革をめちめていくこと、様々な政治反動、合理化、権利剥奪、搾取と収奪に対する斗争が、三里塚斗争の土台のうえに、この斗争と結合することをもって前進する。

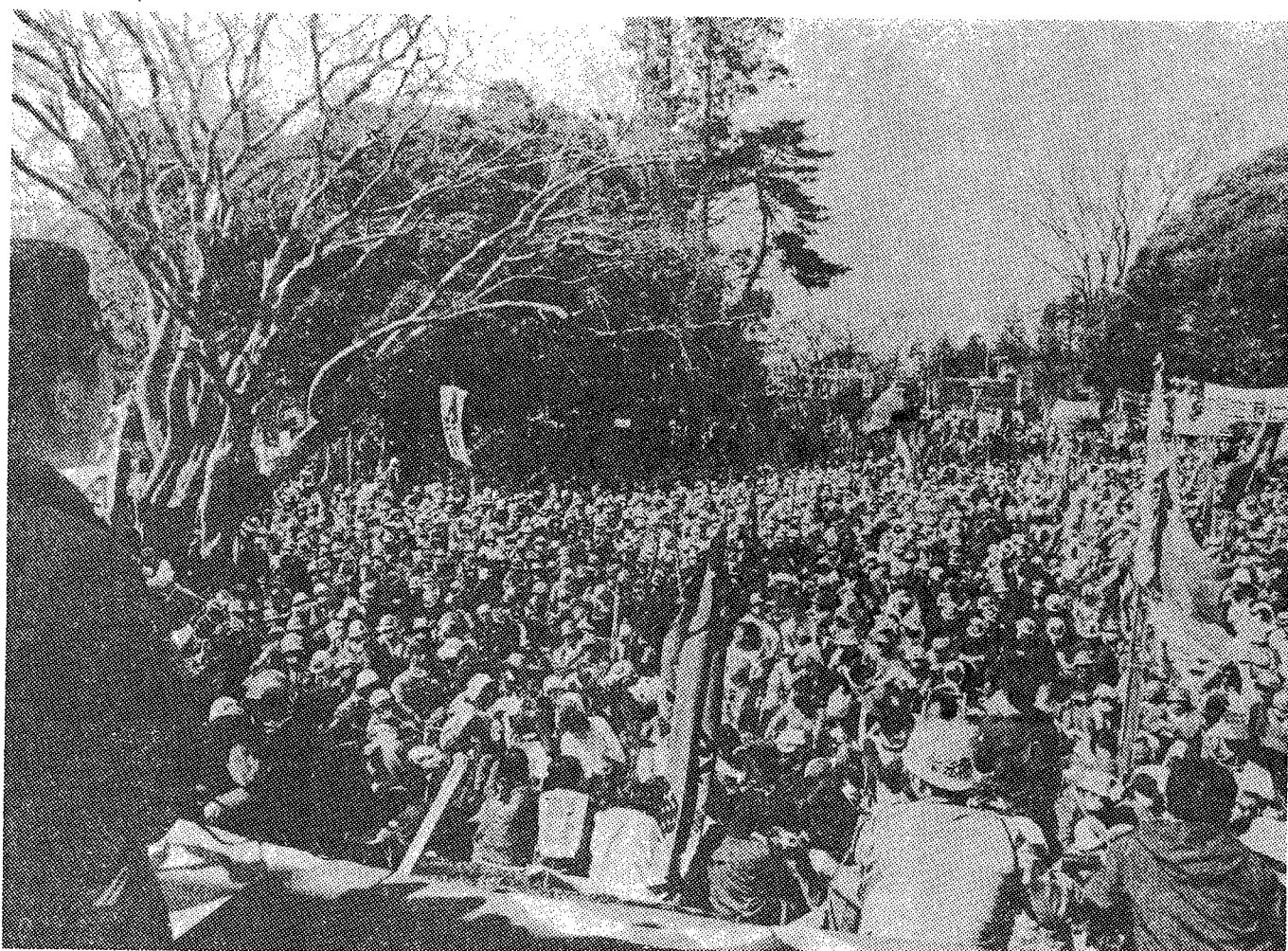


- ② 帝国主義の軍事大口化と侵略、排外主義、差別主義、天皇制イデオロギーの攻撃と斗争し、資本の経済攻勢と合理化に対し、労働運動の原則を堅持すること。
- ③ 密集せる反動、反革命との斗争を、労働組合運動の戦略課題にすること。
- ④ 右翼的「帝戦統一」を粉碎し、三里塚と反対闘争をなする労働運動の全国潮流を形成すること。

(4) 動労千葉の斗争の環

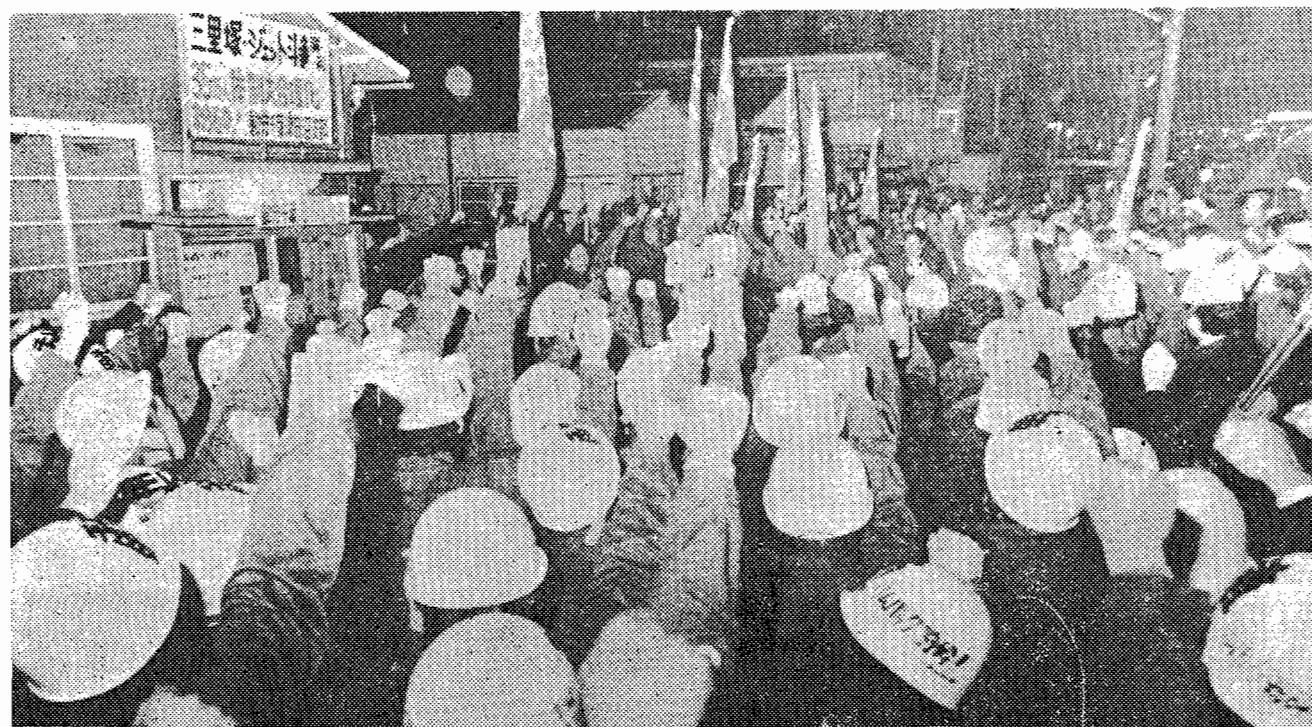
55・10・56・3（ジェット期限切れ）を 動労千葉の真価を問う斗争の軸にすえ、ここにかけて斗争の態勢を構築する。

国鉄労働運動をめぐる状況は、きわめて流動化しておりわれわれの斗争いきがんによって その方向性は大きく左右されるであろう。たかだか1,400 の動労千葉が 国鉄労働運動全体の情勢決定要員になつてゐる。



3・30三里塚・会場を埋めつくす1万8千の労・農・学・人民
(4.)

「本部」-革マルによる春斗決戦スト 襲撃を粉碎し、16ストうちぬく!



われわれは、80決戦ストライキを翌日に控えた4月15日、「本部」-革マルスト破り集団による 動労千葉破壊・春斗決戦スト破壊の津田沼襲撃を、青年部を先頭とする、400の怒りの反撃により粉碎。650名の大結集をもってスト前総決起集会を、激しい怒りと、三里塚・反合・春斗決戦スト貫徹へ向けた圧倒的な熱気のなかでかちこった。

4・15津田沼襲撃を断固反撃、勝利する!

(1) 動労千葉破壊・春斗スト破壊のみを目的に津田沼廻りにおしゃった、「本部」-革マル特別部隊の、ヘル・投石・竹サオをもってすう「4・17型武装襲撃」を青年部の力で断固反撃。吉野一昭君(幕張支部・学園協)の鼻骨々折という詳せぬ重傷者を出したからも粉碎した。!

その後、650名という大結集をもって、革マル彈劾! 春斗スト貫徹のスト前夜集会を大高揚のうちにかちこった。この集会には、結成したばかりの佐倉支部の仲間も60名の大部隊で参加した。

(2) この日の斗争を通して、スト破り=革マルに対する怒りが大きく青年部運動-動労千葉全体の活性化-高揚として実現されている。

4・11錦糸町襲撃・4・17津田沼襲撃事件をはじめ、多くの試練に断じ
(5)

て届せず正義を貫き通してきた斗争の蓄積が、今、大きな運動の高揚として実現しているのだ。

- (3) 「本部」 - 車マル分子の「労働運動とは全く無縁」な反動・反革命としての正体が今回の春斗破壊行為を通して、労働千葉のみならず、労働全国、そして全人民の前に決定的にあはせられた。

この斗争の勝利を通してわれわれは、労働大改革へ向けた大きな展望をかみつかりとつかみとることができた。

おいつめられた危機にたつ「本部」・車マル

- (1) 動労千葉の斗争が、「本部」・車マル分子の破壊策動とはうらはらに、55・10 - 56・3（ジェット期限切れ）にむけて、国鉄労働運動全体に増え大きな影響をあたえ、日本労働運動の情勢決定要因として大きく前進していくことにおいつめられた「本部」・車マル分子

- (2) 「冬の時代論」とはうらはらに、春斗が「ストなし春斗」に終らず、労働者の怒りの中で爆発し、労働運動が大きく高揚しようとしていることにおいつめられた「本部」・車マル分子。

○「ストなし春斗」を前提として、「労働かストなし春斗を粉碎した」という印象をつくるための「3・12アリバイスト、路線の破壊」。

- (3) 「8月全国大会までに佐倉、鉾子を中心に再建地本を旗上げする」ことを柱闘のなかで公言したにもかかわらず、3月31日には、労働千葉佐倉支部が堂々と結成し、何の展望もないまま、組織的危機にたたされた「本部」・車マル

- (4) 乗務員運用合理化への率先協力 - 裏切りが労働千葉によって暴露され、下部組合員からのゴウゴウたる批判のなかで、死の沈黙をつけざるを得ない「本部」・車マル分子

- (5) 労働運動全体からの孤立の更なる深化と、労働内から再び大きな流動化が開始しようと



していることに対するあせり。

4・15津田沼への暴力的襲撃は、このような、労働千葉の着実な前進のなかで、破産し、危機にたった「本部」-革マル分子が、労働千葉の暴力的破壊をとおして、この危機をのりきろうとしたものであり、これに失敗した革マル分子は更なる危機にたたされたと云えよう

革マルは、今だかつてなし反革命分子だ

(1) そもそも、4・15襲撃とは、公然と春斗ストを襲撃したということであり、日本労働運動の歴史に今だかつてなかつたことである。

日共はかつて「4・8声明」をもって春斗ストを公然と裏切ったが、試験襲撃をしたということはない。鉄労ですらやったことのないことを今、労働「本部」革マル分子が、権力・当局の意をかって遂にやったのだ。

(そもそも、「本部」-革マル分子の「津田沼拠点スト」なるものの唯一のよりどころとなっていた「津田沼特別班」なるものは、4月14日になって急きよテッキあけられたのだ。短期転勤者は、それすら全く知らされていなかった!)

(2) そもそも、このような暴挙を行う「本部」革マルとは一体何なのか。?

われわれは、彼らをもはや、労働者 - 労働組合として認めるわけには断じていかないと、労働運動とは全く無縁なスト破り集団であり、当局・権力の最悪の武装親衛隊なのだ。

(3) しかも、「本部」-革マル分子は、この襲撃に完全に失敗するや、国鉄当局に対し、「申し入れ書」をもって、「労働千葉が襲撃した」「(労働千葉は)千鉄局報『暴力行為の絶滅について』の精神を足下にする言語同断のいるまいをした」「厳正に処置せよ」と公然と強圧を要請しているのだ。しかも、「秋山声明」=「局報号外」を全面賛美し、もうだしたということは、「首を切れ!」ということである。国鉄当局が、55・10・56・3へ向けて、労働千葉撲滅のために、これによろこんでとびついでいることはいうまでもない。当局・権力・革マル一体とな、た労働千葉破壊策動を粉砕せよ!?



春闘 動労千葉の前進!



II

聞いた
成果 ①

春闘と固く結合し、3.30 三里塚現地集会に大結集

3.30三里塚現地大集会は、二期工事阻止へ向けた80年オ一派の聞いとして1万8千余の大結集、16万9千の百万署名に示されるように全国人民の80年三里塚決戦が大きく確実に開始されたことを示した。

反対同盟農民は、79年の「話し合い」攻撃 - 「農振策」農協移転など卑劣な反対同盟分断 - 破壊攻撃を完全に

粉碎した。反対同盟のすすめた移転反対署名は4分の3をこえ、公団用地貸付攻撃は芸山町全体で粉碎した。反対同盟は旧来の農村支配をこの斗争の中でうち破（二期工事阻止と新たな自前の戦斗的全国潮流の形成）のもとに労働運動の右傾化翼賛化の危機をのりこえて、80年代をかちぬくための新たな戦闘的・階級的な全国潮流を創造していく斗いがここにしっかりとオ一步を踏みだした。



ったのである。

われわれは、こうした反対同盟の尊斗に応え、三里塚と春闇を結合し、3.30集会の中に日本労働運動の戦斗的再生への陣形をつかみとることができた。

聞いた
成果②

3.31 動労千葉 佐倉支部結成

「これまで皆それぞれに悩み苦労もしてきました。しかし、皆様のはばり強い努力のかいあってここに支部執行委員会支部臨時大会の全員一致をもって佐倉支部総体の進むべき方向がうちたてられました……新しい出発を佐倉支部一人のもれなく全員の団結をうち固め前進してきましょう」（堀口支部長）

3月31日、動労千葉結成一周年にして、支部執行部を先頭にしたねばり強いとりくみの中で佐倉支部結成の事業が達成された。

佐倉支部結成の過程に、「本部」一革マル分子のデマ宣伝と暴力的脅迫、当局一鉄労の分裂策動という密集せる反動との斗争の連続であった。

この佐倉支部の結成は、動労千葉結成以来一年間の着実な前進の成果であり、昨年4.11～4.17をはじめ動労千葉破壊に血道をあげてきた「本部」一革マル分子の完全な破産を示している、とりわけ「8月全国大会までにはなんとしても千葉地本を再建する」と公言していた「本部」革マル分子を完全においつめたのだ。

次の意義は、成田支部とならぶジエット斗争の二大拠点佐倉支部が再生し動労千葉の旗をうちたてたことは決定的である。

81年3月「暫定貨車輸送期限切れ」をめぐる動労千葉の命運を握る斗争の爆発へ向けて大きく廟りの展望がきりひらかれた。又「本部」革マルが執ように佐倉支部破壊を企てたのもこの攻防が三里塚ジエットをめぐる攻防だからである。

次には、いよいよ「国鉄35万人体制」攻撃とりわけ貨物合理化攻撃がいよいよ本格化しようとしている今日、55.10を前に動労千葉への結集をかちとったことは決定的に重要である。

聞いた 成果③

新採

45名中 33名獲得

われわれは、昨年の10.22-11.1の二波ストライキの力を背景に、「新採は退職者の $\frac{1}{3}$ 」という国鉄35万人体制のワクをうち破り、運転職場に51名の新採を獲得した。そして、動力車職場配属数45名中33名を動労千葉に獲得したのである。

この聞いたの成果は、単に、動労千葉の次代をになう若い仲間を獲得するということにとどまらず、動労千葉が掲げる国鉄35万人体制合理化粉碎と結合した三里塚・ジェット闘争貫徹をもって80年代労働運動の戦闘的再生ニシの一環としての動労大改革をめざす運動的・路線的正しさを立証し「本部」反動分子との一年余にわたる組織攻防戦に、動労千葉が勝利し組織的前進をかちとっている現実を歴然と示したことである。

動労千葉新組合員歓迎会



聞いた 成果④

3.2 「三里塚労農連帯・80春闘勝利 80年代を闇う労働者集会」圧倒的成功 真に闇う労働運動の全国潮流の形成へ…

3.2集会は、沖縄から北海道まで全国からの労組活動家160団体572名という圧倒的な結集をもって80年代を闇いぬく鮮明な指針を確立した。確認された「4つの基軸」①三里塚を勝利させる労働運動、②企業防衛主義、排外主義と対決した原則的な生活=権利防衛の闇り、③反動・反革命との対決、④右翼的労組統一粉碎)と当面する2つの任務



3.2 全国労働者集会

聞いた 成果⑤

「本部」革マルの春闘スト破壊粉砕 三里塚-反合 春闘 スト貫徹

4.15 津田沼拠点における「本部」-革マル反動分子200名による4.17型動労千葉春闘決戦スト破壊襲撃を青年部の力で粉砕し、その力をもって怒りも新たに春闘決戦ストを貫徹

ジェット燃料列車7本ストップ

①春闘三里塚反合ストとして、千葉津田沼と共に蘇我・鹿島地区においてストを貫徹、ジェット燃料列車1日7本の全てをストップさせた。

80年代反動攻撃の根幹を打ち碎く斗いとして、三里塚斗争と春闘の結合、経済闘争と政治闘争の結合をもって日本労働運動の戦闘的再生へ向けて春闘をけん引、55.10.56.3への大きな展望を開く。労働運動の新たな潮流の形成に向けた戦闘的路線を実践をもって提起し、放いた。

本社交渉・公労委への登場

②この1年間の聞いたを通して中央政治に動労千葉が堂々と登場、权力、当局も動労千葉の聞いたを無視することができないという現実を実現。

総評民同、曰共、「本部」革マルの裏切りを許さず聞いたをけん引しうる情勢決定要因として登場する。

③スト中止後翌日、权力の不当介入弾劾、京成スト支援の減産闘争を貫徹、





(1) 総評民同の賃下げ「8%」要求にもかかわらず（それをみすかして）日帝ブルジョアジーは「超低額回答」をもってゆずらなかった。このことは、現在の賃金抑制－合理化徹底した資本攻勢は、軍事大国化－戦争へと向う支配階級の80年攻撃の一環としてあり、日帝、国家権力との徹底した対決なしには生活すら守れないという状況に遂にいたったことを示している。

労働者階級の任務を帝国主義権力の打倒を通じた全人民の解放という基本的立場から切りはなし、「物取り主義」の狭い経済主義的、組合主義的利害だけにきりちぢめてしまう既成労働運動のあり方すら帝国主義の危機の時代にあっては全く無力であるということ、春闌圧殺、総評解体、公労協解体を狙う攻撃の中にあって体制の根本的変革ということを真向からかけた労働運動の立場性、「労働者が生きるために資本は死ななければいけない」という時代への突入を示している。

(2) 総評・民同・富塙による事前からのスト回避策動を打ち破ってストライキに突入 総評、民同は、労働者側委員の辞表提出というペテン的な裏切り的形態でしかスト中止ができなかつたという現実、又京成労働者が京成資本の民鉄協脱退という攻撃の中で独自ストライキを継続したということは、合理化、首切り、賃金抑制、所得権の統制奪の攻撃のなかでおさえられること できない怒りが極めて広範に斗いの炎となつてしまふこと。社共闘指揮部を突き破る斗

いの爆発が今だからつてないスケールでにつまりつつあると言える。

(3) 4.15津田沼襲撃にあらわされる事態は、戦闘的労働運動は、体制の危機の深まりを背景として生み出されている密集した反動、反革命（とりわけその最悪の分子革マル）との対決をいや應なしに不可避としており、反動と反革命に対する激しい大衆的戦斗性なしに80年-80年代に勝利する労働運動はあり得ないということを示している。

(4) 以上のように、今春の示した教訓は、労働運動の新たな時代がはじまろうとしているということであり、新たな戦闘的労働運動の潮流の形成は歴史的に不可避なのだ。

そしてわれわれは、対権力闘争を用うことによって時代をさりひらく運動の主流としておどり出しができるのである。



世界の危機は今、戦争に突き進もうとしている！

日帝の軍事大国化を阻止せよ



IV

(1) 内外の情勢は急速に危機を深めただならぬ戦争突入への様相を示している。世界をおおう長期停滞、長期不況は、今や大恐慌前夜的無気味さすら呈している。

米帝カーターは、日欧帝国主義を暴力的に恫喝しつつ、4・ワ対イラン断交一軍事侵略攻撃の一連的推進、4・24イラン軍事侵略、そして、アフガニスタン情勢を口実としたモスクワオリンピックボイコット運動の強引な展開と文字通り世界中を危機にたたきこんでいる。世界の危機は、今や世界戦争への転化の過程を明確に歩みはじめている。

(2) こうした中下日帝は、輸出主導、依存による経済成長は全く不可能となり、石油をはじめとした必須資源の固有の確保地を確立していしないという状況の中で日本経済はきわめて硬直化し、国債依存率39.6%という財政危機が進行激しいインフレ経済へ突入しようとしている。

日帝は今、こうした危機を

① アジア・中東・中国などへの資源略奪的対外資、米・（欧）への輸出のドライブというかたちでの対外膨張

② 最先端技術開発の画策的推進、「技術立国化」軍需産業の育成、経済の軍事化

③ 労働者人民への犠牲の転嫁、榨取と合理化の資本攻勢

④ 対米対抗的な独自の軍事大国化にして戦争政策をもつてのりきろうとしているのである。

日本帝国主義の軍事大国化を粉碎せよ！ 労働運動の産業報国会化を許さぬ！

(1) リムパック以降の情勢のなかで日帝、自衛隊の徹底的増強がもくろまれている。

① 5次防（中期業務見積もあり）の一年くり上げ達成 国防費GDP比1%化を81年から而3年以内に達成（現在でも国防費は帝國主義世界のうちでは米、西独、仏、英につぎ5番目）主要装備買入に2兆8千億円を投入 これは、「総合安保戦略」（①軍事費拡大②経済協力③技術立国化）の第一歩であり、大軍拡への歯止めを完全にとりはらうものである。

② 軍機保護法、スパイ防止法案（「防衛秘密に係るスパイ行為等の防止に関する法律案」）の今国会成立策動

「防衛秘密」なるものは防衛省長官の解釈で判断するというところであり、おもるべく言論、思想の弾圧、天皇制的圧殺の暗黒と反動を復活しようとしている。

③ リムパック80を画期とした日米合同軍事演習のいっそうの激化「日韓合同演習も可能」＝朝鮮出兵発言など自衛隊の海外派兵・実戦部隊化への攻撃の激化

④ 沖縄のアジア、中東、世界への最前線出撃基地化、（兵力10万の米海兵隊迅速展開部隊＝RDF）の創設を容認、自衛隊南西侵略拠点として初の自衛隊演習場の確保

⑤ 有事即応体制の確立へ向けた陸自、対島警備隊の創設と三海峡封鎖（宗谷・津軽・対島）問題の具体化

⑥ 徴兵制の実施へ（閣経連日向発言）



(2) 航空宇宙産業の拡大強化を基軸とした軍需産業立国・産軍共同の80年代富國強兵政策の段階に突入、武器輸出への小み出し、軍事的行動による資源確保へ

・日本商工会議所会頭 永野重雄

「よい武器をつくることが技術発展に貢献する」「武器輸出の解禁を」

・関西経済連会長 日向方義

「防衛費を対GNP費1.9%とせよ 徴兵制の研究を」

・経団連会長 土光敏夫

「高度の国防を」

・日本青年会議所会頭 鶴池祥謹

「わが国からの武器輸出も必要、原子力潜水艦などはもつべき」

・野村経営研究所

「80年代は政治経済の軍事化の10年になる」

・日興証券

「平和産業にかわって『エネルギー、資源、防衛、新技術』の3つが核になる」

・大和証券

「経済のけん引力は、企業、国家優先の投資リード形へ」

・日帝大平

「国際社会は---收拾できない事態を招くおそれのある岐路にたっている
わが国はいかなる事態においても世界の中で名譽ある生存を確保しなければならない」

——軍需産業の急膨張ニ軍事大國化推進の要に位置するのが最先端技術産業であり、とりわけ航空宇宙産業である（航空機産業の軍需化率は88%）
三里塚二期工事強行攻撃、関西新空港強行攻撃の意味もここにある。

(3) ソ連脅威論 - 天皇制イデオロギー

帝国主義的排外主義の大イデオロギー攻勢

・日帝大平は軍事費増額、GNP比1% 有事即応体制の整備等、防衛問題を6月参院選の選舉公約にもりこみ、争点にすべて選舉を行うことを宣言

・一方社会党は恭屈服、共産党は「愛國の党」へ

われわれは、労働組合の産業報告会化 - 企業防衛主義・社会排外主義と並び
帝國主義の戦争と戦争政策に対してこれまで反対の立場と斗争を貫き通さなければならぬ。反戦斗争こそ労働運動の魂である。

三里塚淨なくして労働運動の未来は

斗争の成果を 5・25三里塚



日本は、軍事大口化とアジア侵略へ向けた攻撃の中心に三里塚二期強行攻撃をすえている。

(1) 世界危機と帝国主義間争闘戦の時代への突入という中で特たざる日本は、自家的世戦政策として総合安全保障戦略をうちだし、との三本柱として、

- ① 防衛力
- ② 対外経済援助
- ③ 科学技術立国

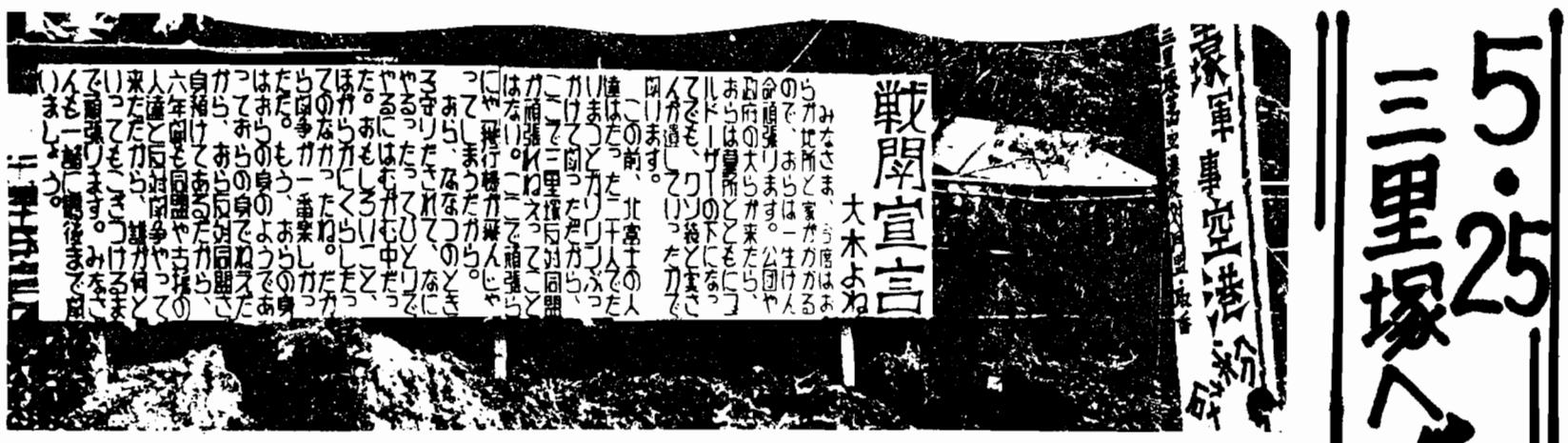
を推進しつつある。

この「科学技術立国」は、「①コンピューター、半導体 ②原子力 ③代替エネルギー ④航空宇宙産業」という4つの産業分野の育成を中心としたものでこれらはすべて争斗戦と軍事大口化の焦点である最先端技術分野であり、富国強兵政策の生命線である。その中でも航空宇宙産業は、日本が最も強くこれを争う分野でありながら、満足のいく際空港すらないといふありさまなのである。しかも、日本の航空機需要の88%が軍需なのだ。したがって航空機産業と空港建設問題は日本体制的延命のために死活的問題なのである。昨年8月20日発表された総額3兆4千億円の「第4次空港整備6カ年計画」(額にして約3次の3.5倍) ことこうした日本航空宇宙産業=軍需産業の基盤確立強化のために日本が死活をかけてうちだしてきているものである。

として、その中心が三里塚完全開港であり、新関西空港建設の策動なのである。

- (2) さらに、三里塚二期工事強行が、日帝の軍事大口化アジア侵略と連動した有事体制づくりの重要な環としてあることは、現在「新三共研究」報告や自衛隊幹部の日常的言動の中で「民間空港をどんどん作れ」「民間空港も緊急事態には使えるようにしておかなければならぬ」等と言わば、「民間航空栈橋イコット訓練飛行場」として7日に開港された沖縄下地島飛行場が軍事空港とのものに他ならぬ」という現実を見ても明らかであり、日帝は民間空港の軍事転用を前提として空港の新設、整備、拡張をあしすすめているのだ。したがって三里塚こそ侵略のための軍事空港であり、軍事大口化攻囲の中心環なのだ。とくに、千葉県は首都治安の習志野空挺団、下志津高射部隊、鳴門レーダー基地、や2丁の下総基地、木更津補給廠、館山海上自衛隊基地と、まさに首都の要衝として自衛隊基地を収集しており、三里塚はその真中に作られようとしている現実を見なければならぬ。
- (3) また三里塚二期工事強行攻囲は、日帝の階級支配政策、治安政策の要を行しているのである。全人民の闘いと結集の砲、全人民に限りない勇気と希望を与える非妥協非和解の14年間の農民の闘い——こうした三里塚闘争の圧殺なくして日帝にして、80年代階級支配政策—治安政策はありません、アジア侵略への展望もないことは明らかである。「国家目的」の名による侵略戦争への排外主義的動員の強制は、労働者人民の闘いの彈圧、圧殺一体となってますます強まるを元気なのである。

三里塚の斗争は、80年代反動政策の根柢を打ち碎く斗争であり、労働者階級と支配階級の力関係の変革をかけた「世直し」、労働者階級の未来をきりひらく斗争なのだ。三里塚斗争を真正面から斗いぬくことなしには、労働運動の戦斗的再生の願望はない。5・25三里塚へ全力で決起しよう！



動労千葉青年部の 4つの方針

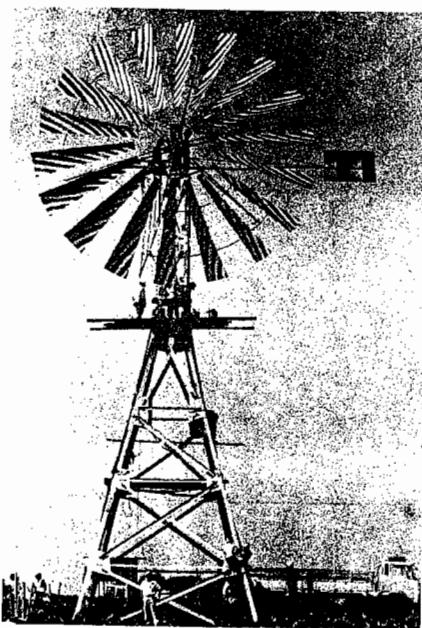


- (1) 当面の目標を、ち、古三里塚現地集会の大結集にすえて、この1ヶ月間を全
力で組織しぬこう。今春斗争よりいらかれた大きな地平を、ち、古へ向けて
結果させよう。
- (2) 動労東京による6月乗務員運用合理化裏切り妥協策動を粉碎し「3万人体制」
粉碎の突破口開け。
・乗務員運用合理化は動労東京地本大会の公然たる裏切り方針 = 「協定外
の要員は、新たなる基地（東北、上越新幹線）の要員確保のためにこれに
手をつける」……を前提してはじめて成立するものであるのだ。その意
味では、動労東京 - 松崎を尖兵としてしな成立しえないこの攻撃は「3
万人体制」の攻撃の力十倍でありながら最大の弱点である。事実動労干
葉の9年二派のストライキと松崎による裏切り策動の徹底した暴露の后
々で古、3裏切り妥協は粉碎されたのだ。
- (3) 6 - 7月「本部」革マルの動労干葉破壊策動、本部派「干葉地本」テック大
げ策動粉碎、8月動労全日本大会へ向けて進もう！
この斗争は、4、15の勝利にひきつづき、6月乗務員運用合理化裏切り策
動ともあいまって動労大改革への大きな展望をめざすやまくいらなくておろ
う。
- (4) 9・10・11・12（ジエト期 切山）斗争の爆発を準備せよ！ 口銃労働運動
の大高揚をめりいらけよ
動労干葉は、この二つの斗争をもって、「三里塚と反合闘争を斗う労働
運動の全日本潮流」の形成に向けて、ヒリカケ、流動する口銃労働運動にま
りこんでいこう！
この斗争をもって軍事大口化、戦争策動と直向うから斗う労働運動の形成
をめちとろう。

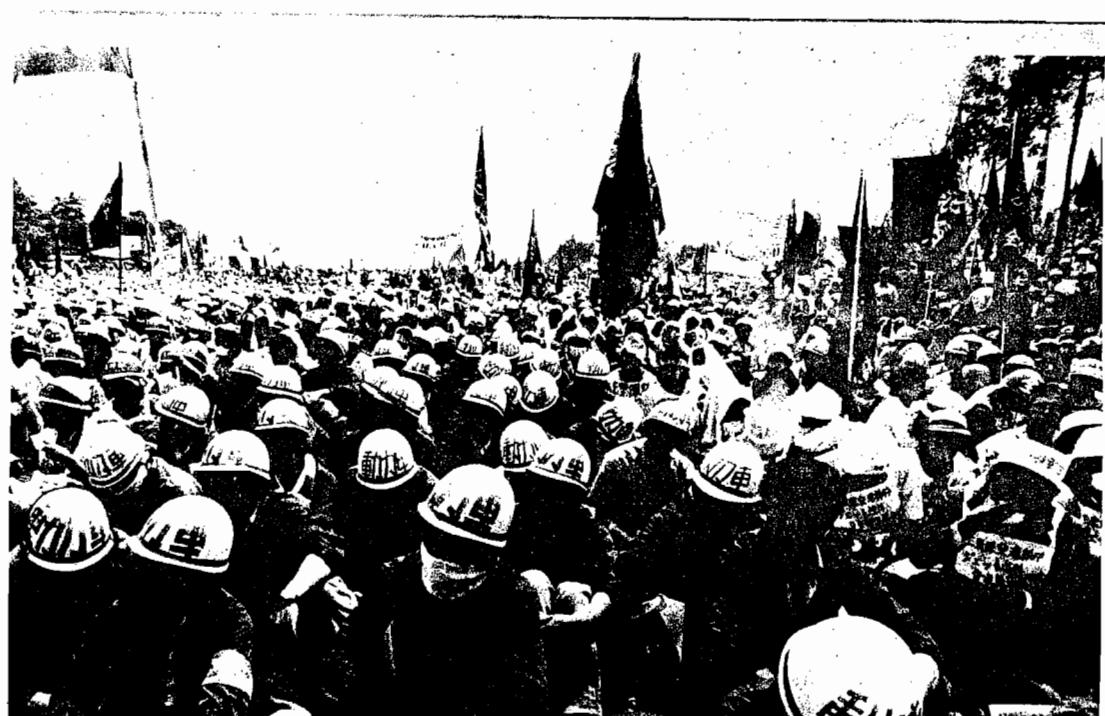
当面する 6つの任務



- (1) 权力、当局、革マル一体となつた新たな動労干葉破壊弾圧策動を粉碎せよ！
「4、15裏鬼を口実として新たな弾圧策動が企てられてゐる。こゝは敵の側からするが、10・56、3への事前弾圧だ！死活をかけて粉碎せよ。」
- (2) 「本部津田沼特別班」を解体！一掃せよ！ 今や、東洋大革マル、潜入スパイ分子嶋田を先頭としてテッキがめられた「津田沼特別班」は、「本部」革マル分子の足をせしむる、である。こゝを解体し「田舎地本」テッキがめ策動を粉碎しよう！
- (3) 動労干葉佐倉支部青年部の早期結成へ向けて、又、鉢子支部早期結成に向って全力でとりくもう。
- (4) 動労干葉結成一周年記念行事の大成功をめざそう
- (5) 5.11-12日、動労干葉青年部全支那活動者会議の大成功をめざそう。
- (6) 三里塚二期工事粉碎へ向け「百万人署名」を徹底しよう



上は風車塔。左は直径10メートルの風車。赤と緑の「光塗料がぬられている



4青年部春斗総決起行動に 11月150名が結集！



↑午前中開催された春斗総決起集会には、結成したばかりの佐倉支部青年部の仲間が結集、万雷の拍手をあびた(写真上)下は、反対同盟青年行隊寺内さん



午後からは2隊にわかれ、1隊は、千葉当局との青年部独自交渉を貫徹。当局の全く前意のない回答に対し続々追及が行われた。



千葉駅頭では、局交渉と平行して、三里塚100万署名の街宣行動が行われた。たった2時間たらずの間に、

250以上の署名と多額のカンパ

がよせられた。

(21)

青年部はギラぞ！！